



白川の安全と立野ダムを考える 流域住民連絡会が発足!



流域住民連絡会の発足会 2018.2.24

2月24日、立野ダム建設に疑問を抱く白川流域の住民団体10グループによる「白川の安全と立野ダムを考える流域住民連絡会」が発足しました。

連絡会を構成するのは、これまで活動を続けてきた当会など3団体と、南阿蘇村、大津町、菊陽町、熊本市各地区の7団体で、ダム建設工事の中断と説明会の開催を国や自治体に求めるほか、立野ダムについての学習会を多くの地域で開き、さらに多くの地域で住民の会の誕生を促します。

熊本市民会館で開かれた発足集会には約70名が参加。発起人で共同代表の1人についての南阿蘇村の松本久さんがあいさつ。「建設には917億円以上の巨額が投じられ、周辺の貴重な自然も破壊される。そのうえ、国はダムの説明責任を果たしていない。流域住民が連携すれば国も無視できない」と呼びかけました。

●国交省九州地方整備局が立野ダム本体工事落札者を決定

国は2018年度の政府予算案(決定額)として、立野ダム事業にダム本体工事費など48億9000万円を計上。国交省は昨年10月に立野ダム本体工事の入札を公告、2月1日に開札し、落札者を107億円で西松建設・安藤ハザマ・青木あすなろ建設JV(共同企業体)に決定しました。今後、準備期間を経て、基礎掘削から本体工事に着手するとのことですが、このような情報は地元紙にも掲載されず、国交省は公表したくないようです。

今回落札された1期工事の工期は2021年3月31日までで、ダム本体の基礎掘削と基礎処理、全体の1割強のコンクリート打設まで行うとのことですが、住民の不安や疑問に全く答えることなく、既成事実を積み上げる国交省のやり方に怒りを覚えます。立野ダム予定地は火山地帯で地盤も悪く、ダムが建設されたら次の世代に大きな負の遺産を残すこととなります。今後の災害や工事の進捗状況で、今後現地がどうなるのか予断は許せません。「立野ダム不要」の声を上げ続けるべきです。

●立野ダムをめぐる動き 2017年10月～2018年3月

- 2017年10月28日 県民総決起集会「阿蘇ジオパークを立野ダムでこわさないで～工事は一旦中止し県民に説明を」森都心プラザ 300人参加
- 11月15日 「10月31日の国土地理院の活断層図阿蘇の公表と立野ダム技術委員会に関する公開質問状（その8）」を国交省に提出
- 11月15日 立野ダム中止と説明を国交省に求める要請書を流域4自治体に提出
- 12月10日 立野峡谷パネル展（熊本市上通）
- 12月21日～熊日新聞で「再検証 立野ダム」4回連載
- 12月23日 阿蘇ジオパーク保全を求める要請文（英文）を世界ジオパーク等に送付
- 2018年1月12日 国土交通省九州地方整備局交渉（福岡市）に国会議員2名（矢上雅義氏、田村貴昭氏）ほか同行。同省に公開質問状（その9）提出。
- 1月16日 白川の安全と立野ダムを考える江南・江原・藤園の会発足（熊本市本荘）
- 1月28日 立野ダム村民現地見学会（南阿蘇村民対象）約80名参加
- 2月3日 南阿蘇村で学習会「荒瀬ダム撤去 よみがえる球磨川」白水庁舎 30名参加
- 2月7日 立野ダム本体建設一期工事、西松建設JVが落札と一部で報道
- 2月24日 白川の安全と立野ダムを考える流域住民連絡会が発足（熊本市市民会館）70名参加
- 3月5日 国交省立野ダム工事事務所に4月20日集会での説明を求める要請書を提出
- 3月23日 白川の安全と立野ダムを考える流域住民連絡会が熊本市に立野ダム説明会の開催を要請
- 3月25日 大津町立野ダムを考える会が発足（大津町交流会館）30名参加

●会計報告(2017年4月1日～2018年3月31日まで)

収入の部	金額	備考
繰越金	4, 435	
年会費・カンパ	726, 710	
合計	731, 145	

支出の部	金額	備考
郵送費	283, 966	会報発送、資料発送
事務用品費	29, 422	紙代、封筒代、プリンターインク代
会場費	27, 350	パレア、森都心ホール
カラーチラシ印刷配布	306, 737	A4版両面印刷1枚約2円、チラシ配布
その他	80, 600	講師謝礼、印刷機使用料
合計	728, 075	

(収入) 731, 145 - (支出) 728, 075 = (残高) 3, 070円

●会計が底をつきかけています

最近の集会等にご参加いただいた皆様にも、会報18号をお送りします。「立野ダムによらない自然と生活を守る会」は、皆様方の年会費（一口1000円）とご寄付のみで運営しております。今回、2018年度分の会費振替用紙を同封させていただきました。会計が底をつきかけています。子ども達に負の遺産を残さないために、今後ともご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。領収書は払込用紙の「受領証」でこれに代えさせていただきます。

●南阿蘇村が開いたダム現地見学会で討論が実現

1月28日に南阿蘇村が開いた立野ダム現地見学会で、南阿蘇村は当初、国交省からの説明のみで終わらせようとしたのですが、ダムに反対する「南阿蘇自然守り隊」の説明も15分間認められ、2時間半の討論会が実現しました。

まず、立野ダム建設現地で国交省がパネルを使用して説明。その後、国交省の事務所に移動後、国交省からスライドを使用しての説明がありました。

村職員の司会者から「村民からの質問は各自2分」との説明があったため、会場から村民代表からの説明を求める意見が出され、印刷資料を配布して15分ほど説明を行いました。その後、村民からの質問や発言に国交省が回答する形で進行しました。

会場から13名の発言があり、立野地区からダム推進の立場で2名が発言。他はダム建設への不安や疑問でした。その内容を整理すると…

「熊本市内では河川改修が進み、ダムは不要である」「立野ダムは毎秒200トンの洪水調整能力しかない。河川改修と遊水地でダムはいらないのではないか」「川辺川ダムでは当初予算350億円が中止までに3300億円に膨れ上がった。立野ダムも917億円の予算が数千億円に膨れ上がるのではないか」「ダムの幅5mしかない穴が、多くの流木やその枝と大量の土砂で詰まるのではないか」「ジオパークとしての立野の自然は、一度壊すと元に戻らない。自然と調和した方法をよく考えないといけない」「ダムは阿蘇の大切な自然を破壊する」「穴あきダムは貯水しないダムであり、観光には役立たない。自然破壊でしかない」「河川改修と遊水地で十分に流せるのでダムは不要ではないか」

以上のような質問や疑問に対し、国交省は回答できなかつたり、ダム建設ありきで、ダムの必要性を正当化するための強引な説明が目立ちました。

国交省の説明に対し、住民が納得するような回答はないままでしたが、国交省からの一方的な説明だけでは正しい情報は得られないことが、とてもよくわかりました。

参加した住民からは、「問題点がよくわかった。もっと住民に知らせないといけない」という意見がよせられました。

立野ダムは「必要だ」「安全だ」「観光に役立つ」という一方通行の説明だけでは、判断を誤らせませす。今後も、両方の立場からの意見が聞けるような説明会や意見交換会が必要だと痛感しました。

2018.3.20
熊日新聞

主張 提言

松本久65 医師
(南阿蘇村)

立野ダムより「たんぼダム」

同様の貯水能力を發揮するといふ。菊陽町より上流の白川流域の水田面積は農水省統計で7702畝とされているから、「たんぼダム」効果を単純に当てはめると1600万トンの貯水能力を見込め、立野ダムの最大貯水能力1000万トンの1・6倍になる。費用は立野ダムが917億円、たんぼダムなら「1000分の1」だから9000万円である。立野ダムの年間維持費は2・5億円、河川改修の維持費は5千万円という。この維持費だけでも、たんぼダム整備費との差額を、協力する農家5千軒に配分すると

1軒あたり年間4万円を提供できる。費用対効果だけでなく、自然にやさしいと思う。減少傾向がみられる熊本地下水にとつても、上流の湛水効果で保全に期待できよう。

熊本地震で大崩落した立野峡谷に、ジオパークの一部を壊してまで建設する危険な立野ダムは不要である。

下流の堤防や阿蘇市の遊水地整備などが進み流下能力は向上している。さらにたんぼダムを推進すれば、自然にやさしい水循環型の治水・利水効果を生む。立野ダムはいったん中止して、英知を集めて再考すべきである。

● 県民総決起集会に300人参加



県民総決起集会 2017.10.28

昨年 10 月 28 日、立野ダム建設に疑問を抱く熊本県民約 300 人が、熊本市の森都心プラザホールで決起集会「阿蘇ジオパークを立野ダムでこわさないで」を開き、工事を一旦中止して県民に広く説明し、疑問に答えるよう国土交通省に求める宣言を採択しました。

集会では、熊本地震で斜面が崩落した立野峡谷をドローンで空撮した動画を映しながら、ダムの底に設けられる幅 5 メートルの放流孔（穴）が流木や土砂でふさがる危険性を指摘。何度公開質問状を出しても一度も回答しない国交省を批判しました。

阿蘇ジオパークガイドの中島一美さんは、国交省の新阿蘇大橋建設で立野峡谷の柱状節理が破壊されることを南阿蘇村も阿蘇ジオパーク協議会も事前に知らなかったとして、行政はジオパークの重要性を認識していないと訴えました。白川漁協の元組合長や 5 年前に被災した熊本市渡鹿地区の住民らがダム建設への懸念を表明。最後に「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」姿勢を改めるよう国交省に求める宣言を拍手で採択しました。

● 国交省交渉(福岡市)に国会議員2名が同席



国交省交渉(福岡市) 2018.1.12

1 月 12 日、立野ダム問題の国土交通省九州地方整備局（福岡市）交渉に 2 名の国会議員（矢上雅義氏、田村貴昭氏）、3 名の熊本県議会議員、3 名の熊本市議会議員に同行いただきました。事前に提出した 9 通目の公開質問状は、現地見学会や国交省ホームページを見て、その上で質問しているのに、国交省はホームページを印刷して渡し、ホームページに掲載されている内容を述べるに過ぎない実質「ゼロ回答」

で、消化不良のまま交渉は打ち切られました。

編集後記 熊本地震で寸断された国道 57 号の復旧ルート「二重峠トンネル」の建設が急ピッチで進んでいます。一方で、立野ダムが建設されようとしている立野峡谷の大半が、地震で斜面崩壊を起こしています。江戸時代、肥後藩主が参勤交代で使った豊後街道は、立野を通さず少し北の二重峠に造られました。また、大津町外牧から高森方面に向かう南郷往還も、立野を通さず北向山（白川南岸）に造られました。なぜ立野ではなく、急峻な外輪山に街道を通したのでしょうか。立野火口瀬付近は、何百年かに一度おきる大地震や大洪水で度々崩落することを昔の人々は知っていて、あえて急峻な二重峠や北向山に幹線道路を通したのではないのでしょうか。明治以降、戸下ルートや豊肥線、国道 57 号が立野に造られましたが、2012 年の九州北部豪雨で戸下（長陽大橋）付近の旧道は全て崩落しました。熊本地震では阿蘇大橋付近が崩落し、現地での復旧のめどは全く立っていません。皮肉なことに、立野で崩落した国道 57 号は、新たなルートを昔の街道である二重峠に造っています。そのような歴史的にも脆弱な場所に巨大な立野ダムを造ったら、後世の人々はどう評価するのでしょうか。（N.O.）